

キシブルがネット接続不要なVRシステム

仮想現実(VR)制作を手掛けるキシブル(本社・札幌)は、インターネット接続せずに複数人が同時参加できるVR教育共有システム「i VRES」を開発した。VRゴーグルをWi-Fiルーターを通じてつなげる仕組み。これを活用して建設ICTのネクステラス(同)が土木現場の安全教育に乗り出し、建設DX(デジタル・トランスフォーメーション)を加速させる。

キシブルは2020年設立のベンチャーエンターナメントハウスVRなどビジネス向けのコンテンツを手掛けた。

iVRESは、360度カメラで撮影した映像を親機のVRゴーグルで事前に読み込み、会場に集まつた参加者のVRゴーグルと接続することで映像体験を同時に共有可能。ネット回線を使わなければ、一度に通信できるVRゴーグルは5~10台。参加者はアバターでコミュニケーション機能によるルーターの性能によるならどこでも利用できる。360度カメラの映像であれば、利用者が撮影したものでも編集せずに視聴できる。

開発の発端は医療分野での人材育成だった。工学系習で本格的な行為ができない、資格取得後に患者で実践するしかない。

ネクステラス 安全教育に活用

Wi-Fiで複数人が同時参加



キシブルは北海道科学大と連携し、エックス線撮影現場をCG化。「バーチャルX線撮影トレーニング」として21年1月

医療分野では患者の個人情報を扱うため、外部

VR機器にはiVRESの開発協力をしたPiCo社の製品、360度カメラにはInsta360社製のアクションカメラを提案。システム導入は70万円で、1台4万台のVRゴーグル費用を台数に応じて加算する(税別)。キシブルの岸敬介社長は「今後も開発・改良し、アップデートにも



ダンプトラック運搬作業時ヒヤリマップのVRイメージ

Wi-Fiルーターでゴーグル同士をローカル接続し、VR体験を複数人で共有できる

のサーバーを介さないiVRESは嚴重なセキュリティ対策が必要な点もメリットだという。デバイスに読み込む360度映像を変えれば、あらゆる分野に展開できる。

そこで山口大と連携し、解剖の様子を360度カメラで映像化。バーチャルX線撮影トレーニングのCGをカメラ映像に組み替えることで、iVRESを3月に開発した。医療分野では患者の個人情報を扱うため、外部企業者がいたことから、製品提案を本格化させる。これを土木の安全教育に応用しようと、キシブルとネクステラスが販売協力関係を結んだ。興味を持った札幌市内の建設業者がいたことから、製品を本格化させられる。ネクステラスの木下大社長は「映像にメモを残せるのでK-Y活動やヒヤリハットの知識を蓄積できる。安全教育や現場見学をVRに置き換えられれば」と期待する。